

水災害を基軸とした防災情報伝達実験の実施

コンサルタント国内事業本部 首都圏事業部 統合情報技術部 遠藤和志 他

○キーワード

水災害、情報共有プラットフォーム

○概要

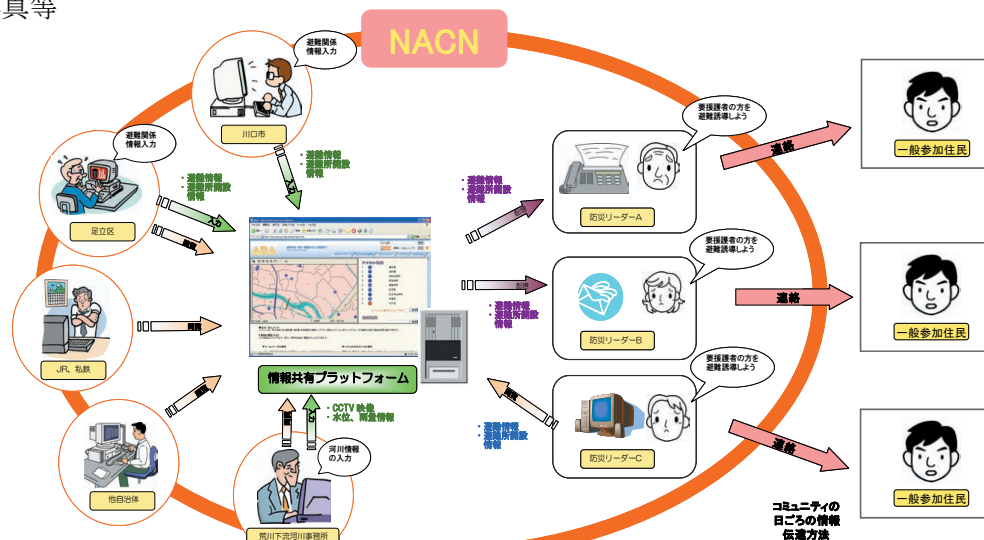
荒川下流域の 2 市 7 区の防災担当機関並びに国土交通省荒川下流河川事務所では、水災害時の連携による情報提供の統合化を目的に、行政機関の連携による防災情報共有プラットフォームを構築し、そうした非常時にエンドユーザーに対してダイレクトな情報提供を実現することを目指しているところである。本業務は、この防災情報共有プラットフォームの有効性を検証するため、既存インフラ（光ファイバ、CCTV カメラ、監視観測機器など）を活用し、近年多発する予測のつかない集中豪雨を含む水災害イベントを想定して社会実験を実施したものである。

○技術ポイント

社会実験では水災害をターゲットに、

- ① プラットフォームによるプッシュ型情報発信
- ② プッシュ型情報配信による水災害イベント情報の認知
- ③ 情報共有による行政担当への判断支援
- ④ 地域防災リーダーへの迅速かつ多様な方法による情報提供
- ⑤ 防災リーダーから一般住民への情報伝達
- ⑥ 防災リーダーと一般住民の避難所への避難を一連の流れとして演習し、具体的かつ現実的な課題と効果を検証した。

○図・表・写真等



社会実験の実施イメージ（行政住民間連携）



一次避難所での住民受付



住民避難状況



自治体災害対策室参集状況